

**平成 27 年度 第 2 回屋久島世界遺産地域科学委員会 議事要旨****(1) 平成 27 年度第 1 回科学委員会の議事要旨**

- ・屋久島世界遺産地域管理計画について、5年に1度の改定に合わせて検討していくべきであり、それが出来ないのであれば検討が遅れている部分以外の箇所について検討、修正を行い、遅れた部分の検討についてはまた見直しすべき。
- ・5年ごとの改定ができない場合は、その理由を科学委員会や地域連絡会議等で諮り、了承を得るような体制が必要。
- ・モニタリングで反映できない指定地域の変更などの大きな部分の検討に対応できる枠組みを入れて頂きたい。

**(2) 平成 27・28 年度モニタリング調査について**

- ・登山道の荒廃について、対処療法だけではなく、屋久島の登山道をどうするのか、統一した目標を決めた上での全島の、根本的な対策が必要である。
- ・新たな登山道を作るとかえって被害が拡大する可能性がある。本分野に詳しい下川委員に助言頂きながら洗掘されている登山道の土木的対策を考える必要がある。
- ・木道を作っても木道の下は植生が生えないため、結局浸食が進んでしまう恐れがある。光が入るような高さをもった木道の登山道を別の場所に作る方法が考えられる。
- ・韓国の事例では、自然休養年制度をつくり、荒廃が激しくなったら側の別ルートを利用し、植生が回復したら元に戻すことを繰り返している。
- ・木道を整備しすぎると原生的景観を損なう恐れがあり、またアクセスが良くなることで更に多くの利用者呼び寄せの恐れがある。
- ・モニタリングの結果を示すだけでなく、その結果をどう評価するかということの原案を示して頂き、それについて科学委員会で議論するようにして頂きたい。
- ・登山道が洗掘など、モニタリングをする以前に早急な対応が必要な段階になっている事項もある。本委員会で対策方法について検討をしていくべきだと思う。
- ・淀川のルートの利用人数は定常状態が保たれているものの、登山道の荒廃が見られる。人による踏圧なのか、シカの影響が大きいのかを見ていくため、データを取り続けることは重要である。
- ・登山利用による浸食は、どのくらいの人が入ると、どのくらいのスピードで壊れ続けるのかという予測を出したほうがよい。
- ・山小屋のノートによる利用者数の調査は絶対数にはならないが続けることで経年変化が見られ、色々な情報も出てくる可能性もある。是非続けていただきたい。
- ・山への利用が集中する中で、里の観光資源の見せ方が重要になってくる。それが結果的

に山の利用の低減に繋がる。

- ・屋久島の観光的な視点で考えると、山の利用の集中が続く一方全体の利用者数が下がっている状況で、今後どう屋久島の再価値化をしていくかがポイントになる。
- ・花之江河について、湿地の乾燥化は自然のプロセスである部分もあり、それをなぜ守るのかを検討しておくべきである。
- ・花之江河の陸化への対策について長く議論されてきているが、早急な対応が必要である。
- ・花之江河の湿地ははいつできて、何年ぐらいの歴史があるのかという基本認識が欲しい。
- ・花之江河の陸化の原因はシカによる影響であると、報告書では「考えられる」というレベルでとどまっている。そこで止まっていると次の対策が打てなくなってくる。
- ・(奥岳でのヤクシカ集中捕獲) 予算の問題もあると思うが、やるかどうかは別として、どういった形で手立てをしていくかの検討は、していくべきだと思う。
- ・持続的に屋久島のヤクシカを利活用しながら捕獲していく為には、外部の人材を入れるのもよいが、地元の猟友会の育成も重要になってくる。

### (3) 世界遺産地域の適正な利用について (山岳部利用のあり方検討について)

- ・検討成果は必要に応じてユネスコエコパークの管理計画にも反映させるべきだと思う。
- ・すぐに来ることとして、5年前の写真を札で立てて、「あなたの足が削っている」等の説明をしてもよいのではと思う。
- ・島民が培ってきた、岳参り等の信仰や文化に基づくゾーニングがあるとよい。
- ・学ぶ機会を提供し、例えば世界遺産や、エコパーク、山岳信仰等について一連して知ることができるルートを整備しても良いと思う。
- ・観光客への情報提供や環境学習だけでなく、地元住民に対しても情報提供をしてほしい。
- ・公園域の外についても考える枠組みを作っておいたほうが良いと思う。
- ・今、地元からのボトムアップの取り組みを重視する地域が増えている。これは今後屋久島でも可能だと思う。

### (4) ヤクシカ・ワーキンググループでの取組状況について

- ・シャープシューティングの担い手は、島の外部に頼むのか、内部で育成するのか議論していくべき。
- ・数千頭というシカを毎年捕っていることに対して感情面での配慮も必要なのではないか。捕獲数を出すだけではなく、感情面での配慮をしながら捕獲をしていることが周囲に伝わると良いのではと思う。

### (5) その他

- ・影響が大きいと考えられる議題について早い段階で情報を出して頂き、倫理的、科学的側面から早めに議論しておくべき。

- 現状で火山灰の観測を中断するのは適切な判断。再度噴火した際に速やかに観測を再開できる体制を確保して頂きたい。
- 高塚山の荒廃について、シカの影響だけでなく、大気汚染など様々な原因が考えられる。正確な土壌分析を行った方が良い。
- 科学委員会の在り方、議論の仕方を議論する場を作って頂きたい。委員会の前に事前の意見出しを行うワーキング設置やその運営方法について検討したい。